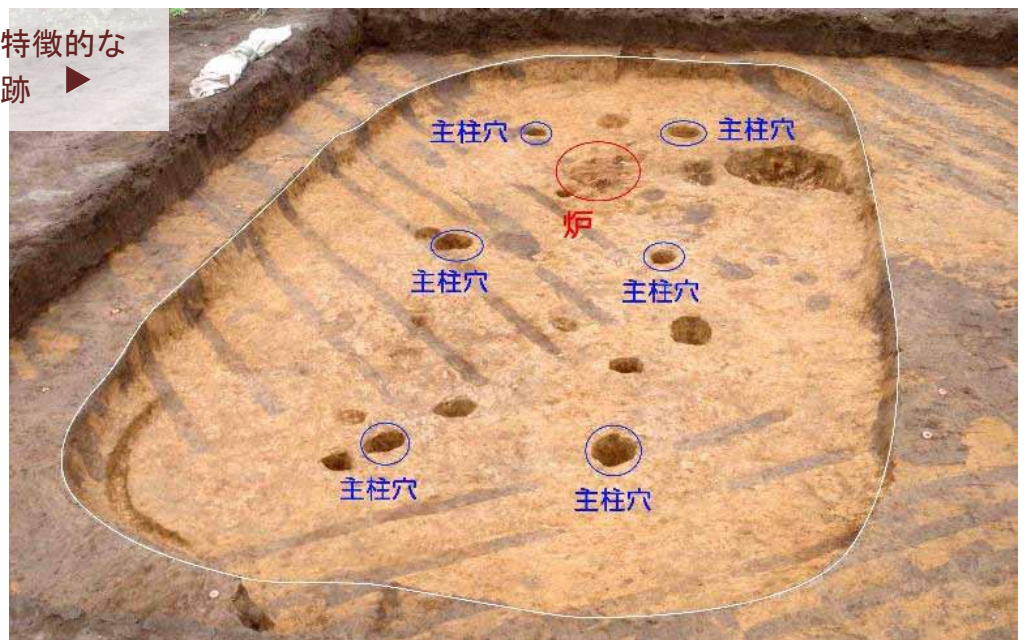


新田遺跡 第20地点

遺跡名	新田遺跡
よみがな	しんでんいせき
調査地点	第20地点
主な時代	縄文時代前期（約6,100～6,500年前）、近世以降
調査地	関沢一丁目2705-2の一部、2705-3、2697-12の一部
調査面積	1674㎡のうち、132㎡
調査期間	令和6年5月8日～5月21日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代の竪穴住居跡2軒（前期1、中期1） 近世以降の柱穴列1列、井戸跡1基</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文時代の土器、石器</p> <p>【概要】 新田遺跡は、富士見江川に面した台地縁辺部に立地する遺跡です。今回の調査地点は遺跡の東側にあり、調査の結果、縄文時代の住居跡2軒、近世以降と想定される柱穴列1列、井戸跡1基が確認されました。</p> <p>2軒の縄文時代住居跡のうち1軒は、約8.8m×5.2mを測る、大ぶりの長方形の住居跡です。「黒浜式<small>くろはましき</small>」と呼ばれる、約6,100～6,500年前の縄文土器の破片や、「磨製石斧<small>ませいせきふ</small>」などの石器が出土しました。</p>

長方形の外形と6本柱が特徴的な
縄文時代前期の竪穴住居跡 ▶



「磨製石斧ませいせきふ」の出土 ▼



発掘調査の様子



縄文土器の破片（右上）、石器（左下）の出土